

過去性をもつ日本語の接頭辞の差異 — 「元-」と「前-」の包括的記述へ向けて—

久保圭 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)

田口慎也 (京都大学大学院 人間・環境学研究科)

1. はじめに

本研究では、過去性をもつ日本語の接頭辞、とりわけ「元(もと)-」と「前(ぜん)-」の共起関係について分析をおこなう。先行研究である久保・田口 (2011) は、「元-」と「前-」の職業名と共起する事例について分析をおこない、語基があらわす職業の「一人以上の定員をもつ」という性質に基づいて「地位名」と「非地位名」という下位分類を提示し、それによって「元-」と「前-」の共起関係を整理している。しかしながら、久保・田口 (2011) の主張では説明が不可能な事例がみられ、また、「元-」と「前-」が職業名以外の語基と共起している事例については扱っていないという点において、記述的発展の余地が残されている。

そこで、本研究においては、上記の久保・田口 (2011) での主張をふまえ、より包括的な記述への足がかりとして、日本語の接頭辞「元-」と「前-」と職業名以外との共起についても分析をおこなう。また、考察により、「元-」と「前-」の共起関係と意味が、語基の性質ではなく、各接頭辞が喚起する解釈の差異によって区別・決定されることを主張する。

2. 先行研究

本節では、本研究の先行研究である久保・田口 (2011) の主張を概観し、その問題点を指摘する。

まず、久保・田口 (2011) では、以下の (1) (2) に挙げるような日本語の接頭辞「元-」と「前-」の職業名との共起関係について分析をおこない、「元-」があらゆる職業名と共起可能である一方で、「前-」が一部の職業名と共起できないことを指摘した。

- (1) 彼は元 {首相／大統領／大臣／医者／サラリーマン／エンジニア} だ。
- (2) 彼は前 {首相／大統領／大臣／*医者／*サラリーマン／*エンジニア} だ。

次に、「前-」と共起可能な職業名 (首相／大統領／大臣など) が共通して「一人以上の定員をもつ」という特徴をもつことを述べ、この特徴をもつ職業名を「地位名」、もたないものを「非地位名」とし、「元-」と「前-」の職業名との共起関係について、以下の整理をおこなった。

- (3) 日本語の接頭辞「元-」は、地位名と非地位名の両方と共起可能である
- (4) 日本語の接頭辞「前-」は、地位名とのみ共起可能である

しかしながら、以上の分析の対象となっている事例において、文脈によっては共起関係が変化するものが存在する。以下の (5) の例における「ソムリエ」と「バレエダンサー」は、久保・田口 (2011) の分析では「非地位名」として分類されている職業名である。

- (5) 彼は元 {ソムリエ／バレエダンサー} だ。／*彼は前 {ソムリエ／バレエダンサー} だ。

(6) 彼はあの店の前ソムリエだ。／彼女はあの劇団の前バレエダンサーだ。

この事実が (3) (4) の主張からでは説明できないことを鑑みると、「元-」と「前-」の共起関係は、語基である職業名によってではなく、他の要因によって決定される可能性が推測される。それをふまえて、本研究では、各接頭辞の職業名以外の語基との共起関係にも着目し、より幅広い事例について分析をおこなう。

3. 事例の収集方法

本節では、本研究でもちいる事例データの収集方法について説明する。まず、「元-」と「前-」に共起する語を Sketch Engine から収集し、リストアップをおこなった。しかし、この手法のみでは、コーパス内に収められていない「元-」と「前-」の事例を収集することができないため、取りこぼしてしまう事例が出る懸念がある。そこで、リストアップされた表現に近いと考えられる事例を作例して、その使用が実際にあるかどうかを、Google 検索の「完全一致検索」によって調査した。

4. 具体事例の紹介

本節では、3 節で説明した方法に基づいて収集した「元-」と「前-」の事例データを概観する。以下の (7) (8) に収集した事例を抜粋して挙げる。

- (7) 「元-」： 元夫、元記事、元原稿、元彼、元同僚、元妻、元データ、元情報、元被告、元画像、元サイト、元小学校、元公園、元職場など
- (8) 「前-」： 前段階、前週末、前世紀、前政権、前ページ、前時代、前バージョン、前世代、前大会、前モデル、前シーズン、前セクション、前機種など

以上の事例における語基は職業名以外のものである。これらの種々多様な語基に対して、久保・田口 (2011) で提示された「一人以上の定員をもつ」という特徴はみられず、また、(3) (4) の分類も不可能である。また、職業名との共起関係についても、(5) (6) にみられるように、文脈によって容認度に揺れが生じる場合がある。

5. 考察Ⅰ：職業名と共起する事例

本節では、2 節の (5) (6) に挙げたような「元-」と「前-」が職業名と共起する場合の容認度が、文脈によって変化するという現象について考察をおこなう。

まず、(5) (6) と同様、以下のように「地位名」と「非地位名」の区分では説明できない事例がある。これらの事例は、「元-」と「前-」の共起関係が語基によって決定されるのではないことを示すものである。

- (9) 彼は元板前だ。／*彼は前板前だ。
- (10) 彼はあの料亭の前板前だ。

(10) の「前板前」という表現は、「あの料亭」での歴代の板前たちのなかで、一つ前の値（現在の板前の一つ前の板前）を指示するものである。この (9) (10) にみられる容認度の揺れは、「あの料亭の」という文脈をくわえることで「歴代の板前たちのなかでの位置付け」が喚起されるために生じるものである。このことは「元-」と「前-」の共起関係が語基によって決定されるのではなく、各接頭辞が喚起する解釈によって決定されるこ

とを示している。一方で、(9)の「元板前」という表現は、「彼」個人の過去の属性としての「ある個人の経歴」をあらわす。

つまり、「元-」と「前-」の共起関係や意味の差異は、職業名の種類によって生じるのではなく、各接頭辞が喚起する意味の差異によって生み出されることがわかる。「元+職業名」が「ある個人がかつてそうであった」という「個人の属性・経歴」をあらわすのに対して、「前+職業名」は「ある職業の『現在よりも一つ前』のスロットに何が入るか」という「履歴上の値」を問題にするという点において差異が生じている。

6. 考察Ⅱ：職業名以外と共起する事例

本節では、「元-」「前-」と職業名以外の名詞との共起関係について考察をおこなう。以下に挙げるように、職業名以外の名詞が共起する際にも、5節において指摘した「個体の属性」としての解釈か、「履歴上の値」としての解釈かという差異が、各接頭辞の共起関係と意味の差異に影響していることがわかる。

- (11) 前週末, 前世紀, 前時代, 前世代
- (12) 元夫, 元カレ, 元カノ, 元恋人, 元原稿, 元データ, 元画像, 元サイト
- (13) 元小学校, 元公園, 元職場

(11) から (13) の表現の接頭辞を入れ替えると、以下の (14) から (16) になる。

- (14) *元週末, *元世紀, *元時代, *元世代
- (15) 前夫, 前カレ, 前カノ, 前恋人, 前原稿, 前データ, 前画像, 前サイト
- (16) 前小学校, 前公園, 前職場

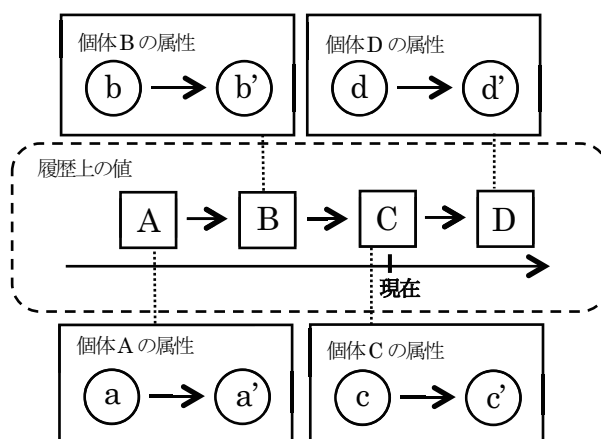
まず、(11)の各表現が容認されるのに対して、(14)に挙げた「元週末」「元世紀」「元時代」「元世代」という語は存在しない。これは「週末」や「世紀」が「元-」と共起すると、「かつてどのようなものであったか」という解釈となってしまう、それ自体に「かつての属性」が存在しないこれらの語と意味上の齟齬をきたすためであると考えられる。また、(12)の「元夫」はかつての夫であれば使用可能であるが、(15)の「前夫」は「一つ前の夫」という意味であり、二回以上再婚している場合には「最初の夫」を指示することはできない。これは、「カレ」や「恋人」などと共起する場合も同様である。そして、(13)の「元小学校」「元公園」「元職場」なども、「かつてその場所が小学校／公園／職場」であれば使用可能である。しかし、(16)の「前小学校」「前公園」「前職場」となると、「現在の一つ前の状態が小学校／公園／職場」でなければ使用できず、二つ以上前のその場所の状態を指示することはできない。

なお、「昭和の日」を「昭和の日（前みどりの日，元天皇誕生日）」と表記している例も存在した。この表現も「かつての個体の属性」か「履歴上の一つ前の値」かという差異をあらわしている例である。

このように、職業名以外の名詞と共起する場合も、職業名との共起の際と同様、「個体の属性」か「履歴上の値」かという差異が、意味の差異や共起可能・不可能の差異を生み出しているのである。本研究では、上記の「かつての個体の属性」という解釈を「個体属性解釈」、また「履歴上の一つ前の値」という解釈を「履歴指示解釈」とし、「元-」と「前-」の二つの解釈の関係を以下のようにまとめる。

- (17) 「元-」は「個体属性解釈」を喚起する
- (18) 「前-」は「履歴指示解釈」を喚起する

右図は、(17) (18) の差異を示したものである。破線で囲われている部分は履歴上の値をあらわす。ここには A から D の値が設定されており、(9) (10) に照らし合わせたとき、C を現在の板前（現板前）と位置づけるのであれば、B は「歴代の板前（履歴）」における、現在より一つ前の値」をあらわし、「前板前」を指す。こうした履歴上の一つ前の値を示す機能をもつのが「前-」である。また、各値から点線で結ばれている四角は、個体の属性をあらわしており、値が A から D のどれであったとしても関係なく、ある個体がかつてどうであったかを示す「元-」の機能をあらわしている。



図：「元-」「前-」の解釈の差異

7. おわりに

本研究では、日本語の接頭辞「元-」と「前-」の共起関係について分析をおこなった。まず、久保・田口 (2011) における「元-」と「前-」の職業名との共起に関する議論を概観し、その主張の問題点を指摘した。次に、コーパスからのデータ抽出や作例によって、職業名以外の名詞との共起事例を収集し、分析をおこなった。その結果、「元-」と「前-」の共起関係の差異が、共起する語ではなく、各接頭辞が喚起する解釈によって決定され、また意味的差異にも影響していることを明らかにした。今後の課題としては、「元-」と「前-」に関連する他の接辞「現-」「新-」「次期-」「ポスト-」などの分析と、それらの体系的な記述をおこないたい。

参考文献

- 碓井智子. 2001. 「空間認知表現と時間認知表現 —日本語マエとサキの認知言語学的考察—」, 京都大学, 人間・環境学研究科, 修士論文.
- 工藤浩. 1985. 「日本語の文の時間表現」, 『言語生活』(6), pp. 48-56.
- 国広哲弥. 1997. 『理想の国語辞典』 東京: 大修館書店.
- 久保圭・田口慎也. 2011. 「日本語の接頭辞『元-』と『前-』について —職業名との共起関係を中心に—」, 『日本語文法学会 第12回大会発表予稿集』, pp. 153-158.
- 篠原和子. 2002. 「時間メタファーにおける「さき」の用法と直示的時間解釈」, 『ことば・空間・身体』 pp. 179-211. 東京: ひつじ書房.
- 檜和千春. 1998. 「方向認識の非対称性とことばの意味の拡張: 「まえ」を中心に」, 『ことばと文化』(2), pp. 94-116.
- 益岡隆志・田窪行則. 1992. 『基礎日本語文法 一改訂版』 東京: くろしお出版.
- 渡辺実. 1995. 「所と時の指定に関わる語の幾つか —意味論的に—」, 『国語学』(181), pp. 18-29.

コーパス

Sketch Engine (<http://www.sketchengine.co.uk/>)

連絡先

久保圭 (KUBO, Kay)
京都大学大学院 人間・環境学研究科
antshavenoborder@gmail.com

田口慎也 (TAGUCHI, Shinya)
京都大学大学院 人間・環境学研究科
shinya.taguchi84@gmail.com